

広報



ごじようめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集 秘書課 電話(018876)代 2100番
印刷所 湖東印刷所 電話(018876)2430番 一部 5円
郵便番号 018-17 毎月 1日・15日発行

公 告

五城目町都市計画杉ヶ崎墓園

計画決定案の縦覧について

五城目町都市計画杉ヶ崎墓園計画決定案の縦覧を下記により行います

記

期 日 自 昭和53年1月26日 至 昭和53年2月9日
場 所 五城目町役場 企画部 整備課



町当局に感謝

1月26日午後3時30分から、杉沢小中学校寄宿舎の入舎式を行った。伊藤校長は式辞の中で「県内27番目の寄宿舎になったが、町当局、同教育委員会の配慮に感謝したい。これで児童、生徒が安心して勉強できることになった」と謝意を述べた。

寄宿舎は父兄と学校側の熱意で完成

また加賀谷町長は「徳川家康が6歳頃から人質にされ、両親と離れた生活を送りながらも、強い意志をもって生きてきたために後に立派な殿様になっている。

家を離れてみると、おとうさんやおかあさんのありがたみがよくわかるものである。

この寄宿舎は、父兄と学校側の熱意によって完成したものである。みなさんも仲よく一生懸命がんばってほしい」と祝辞を述べた。

規則正しい生活は健康を守る

続いて、畑沢教育委員長は「規則正しい生活を、明るい気持ちでみんなと仲よく送ってほしい。明日に夢をいだき、希望を持って生きていくことは、健康上非常に大切なことである」と、専門的な立場から健康な生活を送られるよう望んでいた。

辛くきびしかった登下校

～六人の児童生徒喜びの入舎式～

県内で二十七番目の寄宿舎

冬の思い出はつらいことばかり

この寄宿舎には、中学生2人、小学生4人の入舎となるが、舎生を代表して、金沢真由美さんが「木の香りもすがすがしい。モダンな寄宿舎本当にありがとうございました。

人の足あともない吹雪の中を、弟と二人で離れないように手を握り、必死になって登下校したこと、時にはその寒さに堪え切れずに泣きながら歩いたこと、冬期間の思い出はつらいことばかりでした。でも、もう安心です。学校のすぐ裏に立派な寄宿舎ができたので、よかったなあとは心底そう思っています。朝と帰りの時間を勉強にかけよう。私はそう心に決めてます。今春卒業なので、最後の舎生活になりますが、意義あるものにしたいと思っています。

町当局のみならず私たちのために本当にありがとうございました。このあとカレーライスで夕食会午後4時50分頃終了した。

常任舎監新任の小林先生

すでに3日間の基礎訓練を終えている児童生徒は、小林一夫常任舎監を中心に、家族的ムードをかもし出していた。入舎式に参加した父兄たちも、子どもたちの落着き先を見て安心したのか、もっぱら減反の話題に花を咲かせていた。

△広報サロン▽

農業の足もとを見つめて

富田 石井 良治



今年は農家にと
ってきび
しい年
になり
そう
だ。言
わ
ずと知
れ

た転作面積の割当がそれである。米が余っている、しかし、米以外多くの収入を望めない単作農家は、その実情は十分すぎる程理解をしないながらも、生活の基盤を米に頼らなければならぬ悲しさがあ

る。転作面積以外の保有面積でいかに米を多く収穫するか、これは農業を営む者の頭から離れない課題である。

今私の部落では、受益者三十九人で十三・二割の暗渠排水事業を進めている。資金の余裕があつて着手したのではないが、少しでもよい米を多くあげたい背水の心情からである。

対象地質は、第三紀沖積層で粘質である。バックホーとトレンチャーの併用であるが、被覆材は製材のくず材とモミガラである。モミガラは一見役不足なように見えるが、効果は抜群である。すでに大湯村では立証済みで、あらためて見なおしたい好資材である。

今まで農業の近代化に金をかけすぎてきたきらいがある。米の生産コストを安くするためには、もつと足もとをみつめたい必要がある。それが山草や稲ワラの堆肥化であり、土づくりの基本を忘れた最近の農業への反省にもつながる。排水をみると、転作時代に対応できる農業への意欲が更にかきたてられる。

農業経営と後継者に関する調査から

最も多い六十五歳前の移譲

町の農業委員会では、先頃町内の居住者で十歳以上の耕作面積をもつ全農家を対象に、農業経営と後継者に関する調査を行ったが、この程その集計がまとまったので概要をお知らせしたい。

この調査の目的は、農業をとりまくきびしい情勢の中で、農家がいかかえている経営の諸問題や、今後に対する希望をとりまとめ、さらには、農業生産の中核となるべき担い手の育成確保対策の一環として、農業青年の動向をつかみ、今後の新しい村づくり、豊かな農村の建設に役立てようというものである。なお、この調査は、対象農家一七九〇戸の六三％に当る、一一二八戸からの報告に基づいて集計、分析している。

一、農家のあらまし
①家族別農家数
家族別農家数を第一表でみる
と、家族数五人が最も多く二・一

七％、次いで四人が一九・五％、そのあとは、六人、七人以上

第1表	男							女						
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
農家数	2	151	397	302	100	15	—	3	151	348	274	157	25	9
比率	0.2	13.4	35.2	26.8	8.9	1.2	—	0.3	13.4	30.8	24.3	13.9	2.2	0.8
	計							無答						
	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上							
農家数	5	41	102	220	245	209	145	161						
比率	0.5	3.6	9.0	19.5	21.7	18.5	12.9	14.3						

第2表	男				女				無答	計
	0人	1人	2人	3人	0人	1人	2人	3人		
農家数	72	742	148	5	74	799	94	1	161	1128
比率	6.4	65.8	13.1	0.4	6.6	70.8	8.2	0.1	14.3	100.0

第3表	20歳以下	25歳以下	30歳以下	35歳以下	40歳以下	45歳以下	50歳以下	55歳以下	60歳以下	65歳以下	70歳以上	無答	計	40歳未満の経営主	60歳以上の経営主
	24歳	29歳	34歳	39歳	44歳	49歳	54歳	59歳	64歳	69歳	以上	無答	計	40歳未満の経営主	60歳以上の経営主
農家数	1	19	32	85	177	218	204	125	115	53	29	70	1128	137	724
比率	0.1	1.7	2.8	7.5	15.7	19.3	18.1	11.1	10.2	4.7	2.6	6.2	100.0	12.1	64.2

第4表	0.1ha以下	0.5ha以下	1.0ha以下	1.5ha以下	2.0ha以下	2.5ha以下	3.0ha以下	4.0ha以上	無答	計
	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5	3.0	4.0	以上	無答	計
農家数	214	287	206	165	102	63	52	10	29	1128
比率	19.0	25.4	18.3	14.6	9.0	5.6	4.6	0.9	2.6	100.0

第5表	充分間に合っている	不足している	計	無答	計
	雇入	一委託	全部委託	その他記入なし	計
農家数	685	197	95	23	55
比率	60.7	(53.2)	(25.7)	(6.2)	(14.9)

第6表	経営規模を拡大したい	新部門との複合経営をしたい	集落農機共同利用をしたい	作業受託をしたい	現状維持したい	農業を廃止したい	無答	計
農家数	336	16	75	29	527	28	117	1128
比率	29.8	1.4	6.6	2.6	46.7	2.5	10.4	100.0

第7表	資金対策	農地規模拡大対策	農畜産物流通対策	経営技術対策	農家労働力確保対策	その他	無答	計
	資金対策	農地規模拡大対策	農畜産物流通対策	経営技術対策	農家労働力確保対策	その他	無答	計
農家数	200	352	81	90	98	18	289	1128
比率	17.7	31.2	7.2	8.0	8.7	1.6	25.6	100.0

第8表	65歳までに移譲する	65歳までは移譲できない	無答	計
	720	238	170	1128
比率	63.8%	21.1	15.1	100.0

第9表	後継者がいないので	後継者が幼少なので	税金が高いため	老後の生活不安	65歳以降に移譲する	自分名義の農地がない	その他	無答	計
	後継者がいないので	後継者が幼少なので	税金が高いため	老後の生活不安	65歳以降に移譲する	自分名義の農地がない	その他	無答	計
農家数	26	43	26	39	39	22	24	19	238
比率	10.9	18.1	10.9	16.4	16.4	9.2	10.1	8.0	100.0

第10表	健康な限り農業に従事	小規模畜産、園芸をしたい	家の世話をしたい	趣味をいかしたい	まだ考えていない	その他	無答	計
	健康な限り農業に従事	小規模畜産、園芸をしたい	家の世話をしたい	趣味をいかしたい	まだ考えていない	その他	無答	計
農家数	553	45	66	131	157	3	173	1128
比率	49.0	4.0	5.9	11.6	13.9	0.3	15.3	100.0

②農業従事者別農家数

第二表で、農業従事者を男女別にみると、男女とも、従事者一人が圧倒的に多く、男が六五・八％、女が七〇・八％になっている。この内訳からもわかるように、男一人、女一人の構成となり、経営主夫婦が農業従事者となる傾向にある。

③経営主の年令

第三表により経営主の年令をみると、四十五歳から四十九歳までの層が最も多く一九・三％、次いで五十歳から五十四歳が一八・一％、四十歳から四十四歳までが一五・七％となっている。従って、経営の中心となっているのは、四十歳から五十四歳までの年齢層であることがわかる。

④経営面積

経営面積の状況をみると、最も多いのは〇・五畧から一畧層で、全体の四分の一に当る二五・四％、次いで〇・一畧から〇・五畧層の一〇・〇％、一・〇畧から一・五畧層の一八・三％となっている。

⑤農業労働力

農業経営の志向を見るため、第六表によって農業労働力の状況を見ると、後継者不足といわれている中에서도、労働力が十分間に合っている農家が六〇・七％になっている。不足している農家は三二・八％で、これらは農繁期の都度人を雇ったり、あるいは、作業の一部またはすべての委託を行っている。

⑥農業経営発展のための施策
農業経営発展のために最も必要（三頁へつづく）

の順となっている。さらにこれを男女別にみると男二人が三五・二％、三人が二六・八％で、女の場合も二人が三〇・八％、三人が二四・三％と同じような割合を示している。

これらの層は、いわゆる第二種兼業であり、全体の六二・七％を占めている。

三畧以上の自主経営志向型農家は全体の五・五％と少く、総兼業化の様相がますます深まっている。なお、この町で最も経営面積の大きいのは六畧である。

農業経営に対する考え方
第七表の数字上では、現状維持したいとするものが最も多く四六・七％を占めている。これは経営規模の拡大をはかりたいが、農地の取得が困難であるとするものや、第二種兼業農家であるために、現状を維持したいとするものなどで、今後の課題に備える要素を含んでいる。次いで、農業経営の規模拡大し、稲単作を希望しているが二九・八％となっている。

秋田湾開発の説明会

住宅地としての発展性が大きい

いよいよ秋田湾開発の構想が具体的な日程に上ってきた。この一月二十一日には秋田湾開発審議会でゴーサインが出され、それと併行して十七市町村の各地区における説明会も活発に行われてきた。

本町においても、昨年の暮れと一月十七日の二回にわたって説明会が開かれ、秋田湾開発の構想に対する意見集約がなされ、究極的には人口流出対策、出稼解消を柱に県民の所得向上を促進する点に大きな意味を持っていることが明らかにされた。

一月十七日町民センターで開かれた説明会には、農林、商工、町内部落会など十七団体五十四名が参加して活発な意見の交換が行われた。

総合製鉄所の建設

この計画は、総工費二兆千億円（完成時の昭和七十年には三兆円を超えるものと予想される。）を投じ、天王、男鹿沖の海を埋め立て、ここに製鉄所を導入し、圧延工程から、鋼管、厚板、薄板などを製造する鉄鋼基地を建設するもの。生産能力は、粗鋼換算で年間千二百萬トン、また関連工業を含めた基地内の電力需要を満たすため製鉄過程で出る副生ガスを利用し一二〇万キロワットの火力発電所を併設する計画である。

新規従業者二万五千人

製鉄所を含む各工場が全面操業した場合、工業生産額は一兆五百億円といまの約二倍に達する。従業者数についても三万三千人のうち配転技術者を除く二万五千人の新規従業者の採用が見込まれている。こうして、昭和六十年代には高炉四基をもつ鉄鋼一貫製鉄所が操業を始める。着工から操業開始

まで、その波及効果は大へん大きいといわれている。

住宅の町として期待

本町にとって秋田湾開発の直接的な影響はともかく、その後背地として関連従業者のベッドタウン化する可能性を持つ。それと同時に鉄鋼、機械金属関係の下請や加工メーカーなどの進出が予想され地場産業へのプラスは大きいとみなければならぬ。

鉄鋼産業の設備更新に全て集約

この構想が具体化するための条件は、まず大きくは、日本経済が構造的な不況から抜け出し、基幹産業である鉄鋼、重電、化学などの設備投資が容易に活発化するものと前提である。かつての高成長期と違い、資本主義経済全体を覆っている過剰生産恐慌を切りぬける秩序ある経済構造へ転換をせまら

戦前であれば第一次、二次世界

大戦。如く軍需工業を主武器とする戦争消費経済でいともたやすく過剰生産を切り抜けたが、第二次大戦後の今日では、秩序ある経済体制によって大枠としては、たえまない設備の更新でかわめて激しい競争力を持った企業社会を形成している。このため新鋭設備の導入が不可欠であり、基幹産業である鉄鋼業の行方は老朽設備を廃棄し、能率的な施設を積極的につくることによって生産力の拡大とコストダウンを図ることに全てかかっているといつて過言でない。

地元労働力の活用期待

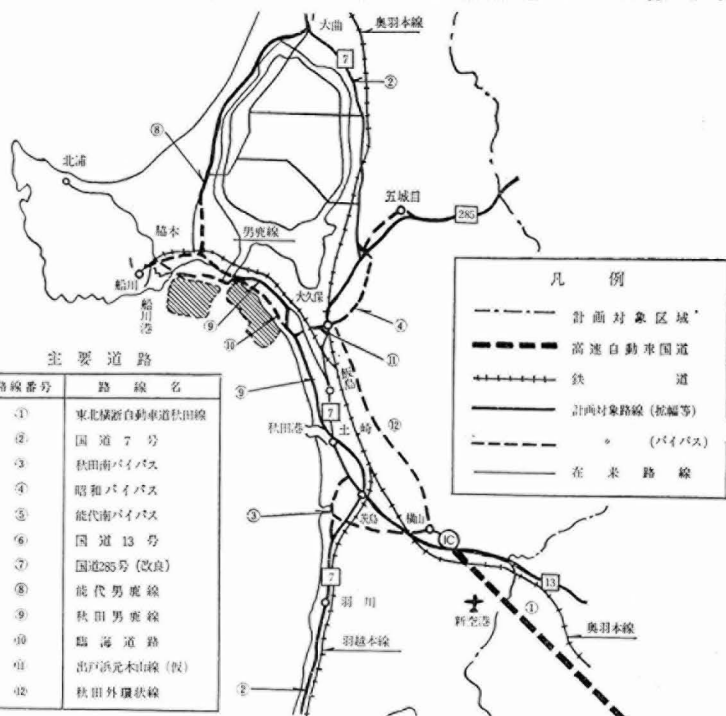
秋田湾開発構想はかつての労働力基地から一転して、我が国多数の工業界に脱皮するわけであり、その行方は各方面から注目されている。

ここで鉄鋼基地に生まれかわるための客観情勢をひもといてみた。

いま、鉄鋼産業をめぐる情勢はきびしい。大手五社といわれる新日鉄、日本鋼管、住友金属、神戸製鋼、川崎製鉄は、いま四割程度の操業短縮を余儀なくされ高炉部門の火が消えている。

労働者のいこいの町へ

この会議に出席した関係者の話



が多くなっている。これらのことから、農地の流動化対策が今後の課題となると見られる。

三、経営移譲の意向

①経営移譲

農業者年金制度の発足以来、農業経営主の若返りや、後継者育成の確保、経営の近代化のための対策は講じられてきたが、経営の移譲に対してどんな考え方をもっているか第九表でみると、六十五歳までに移譲すると答えたものが、六三％と圧倒的に多く、農家は六十代半ばまで現役であることを物語っている。

また、六十五歳までは経営移譲できないとする二一・一％二三八名は、次の理由によるものである。六十五歳までは、経営移譲できない理由のトップに、後継者が幼少のためとする者が一八・一％。次いで老後の生活不安と六十五歳以降でないで移譲できないとする者が、それぞれ一六・四％となっている。

後継者がいないので移譲ができないとする者一〇・九％になっているが、農協などの研究課題になるであろう。

②経営移譲後の生活(仮定も含む)

経営主が、その経営を移譲したあと、どのような生活を望むかについて第十一表でその意向をみると、今までの経験を生かして、健康な限り農業に従事したいと答えた者が圧倒的に四九・〇％、まだ考えていないが一三・九％、趣味を生かしたい一・六％になっているが、土に生きたいとする姿勢と、土を愛する心情がよくあらわれている。

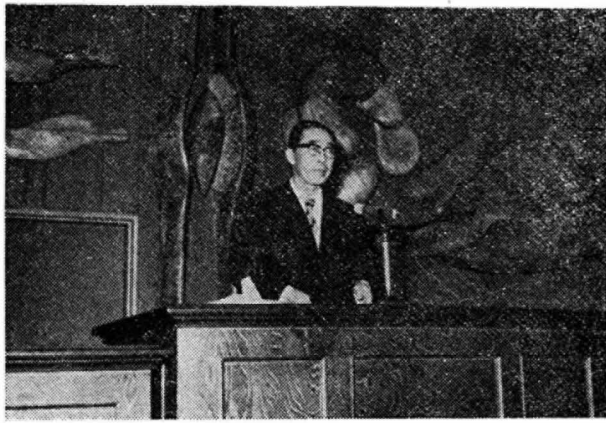
申告期間—昭和53年2月6日~3月10日

申告相談日は三月三日午前十時から役場会議室で行います。

52年度 全町PTA研究集会

児童・生徒の自主性を尊ぶ

～地域における児童、生徒の校外活動とPTAの援助～



年令に区別なく交わる習慣を強調する真井田氏

福と健全育成を図るため地域におけるPTA活動をいかに進めるべきか。をテーマに一月二十二日(日)午前九時四十分から町民センターで一五四名のPTA関係者が集まり昭和五十二年五城目町PTA研究集会が開かれた。集会は、分科会講演に分かれて行われ、分科会は中学校、小学校、幼稚園、保育園の三つの部会を持ち、熱心な討論を行った。

またこの会を中心に部落単位で海水浴、七夕、映画会、正月行事、親子体力づくりなどを通して、親子のつながりはもちろんのこと地区住民の和を育て深めている。さらに特徴的なことは、地区住民全員がPTA会員になり、こどもたちの健全育成に意を注いでいることであった。

芽ばえる郷土愛 杉沢の場合、昨年四月からふる里づくり親子共同活動を展開している。その目的は、自分たちの住む郷土に愛着をもち

自主的な集団活動でのびのびと小学校部会では、こども会とPTAの両立について、こどもの校外活動を彼らの自主性に委ねてはどうか。解放感のともなったこどもたちの集団活動がどんなに生き生きしているかということである。かつては、こどもたちの自治組織があつて、夏休みや冬休み前に各部落ごとに分かれて、休みの暮し方や上級生と下級生の関係をいかにつくるかなど話しあつた。こどもたちのリーダーとPTAの関係でこどもたちの自主性を伸ばすことが可能であるとする意見も出された。

▽九人制バレーボールチーム 編成は、社会人九人(男女混合)とし、二名以上の女子を含むものとす。職場、一般を問わず編成は、自由で他町村居住者、学籍を有するものを除く。年令制限はない。

▽家庭バレーボール チーム編成は、男女混合(男四人、女四人)とし、年令制限はない。

▽その他 出場選手の資格、選手健康管理などについてチームで責任を持つこと。こども連れについても同様をお願いしたい。

▽バレー、バスケットの申込は二月七日(火)まで公民館(電話四四一一)へ

でもよい。

こどもの健康に育つてほしい 児童、生徒の健全な育成は、家庭、学校、地域との三つの結合体であることがこれまで語られてきた。受験ノイローゼ、授業について行けない落ちこぼれなど大きな社会現象となっている。

分科会のテーマは「地域における児童、生徒の校外活動とその援助体制はどのようにしているか」であった。

地区全員がPTA会員 まず中学校部会では、富津内、杉沢町PTAから報告があつた。両地区は小、中併設校で大規模校に比べ活動しやすいという有利さがある。

富津内地区では年二回、夏、冬休み前に学校の指示事項に基づき非行防止のためチラシ、パンフレットなどを配り啓蒙活動を行っている。

親の過保護をなくす 幼稚園、保育園部会では、親の過保護によるこどもの甘えが出され、現代の子は親を上回るほど言葉が達者であるという。

自然に對して体で感じ、学ぶことやドロだらけになって遊ぶことをしない。親の方でもおもちゃやゲーム器など与えるだけで、直接的な保育に欠けるのではないかと提起された。

そこで、集約された点を見ると、やたらとこどもにおもちゃを与えない。何から何までやる親でなく協力的になった方がよい。物が壊れたら修理方法を教え、自分で直す喜びを与える。

外活動を彼らの自主性に委ねてはどうか。解放感のともなったこどもたちの集団活動がどんなに生き生きしているかということである。かつては、こどもたちの自治組織があつて、夏休みや冬休み前に各部落ごとに分かれて、休みの暮し方や上級生と下級生の関係をいかにつくるかなど話しあつた。こどもたちのリーダーとPTAの関係でこどもたちの自主性を伸ばすことが可能であるとする意見も出された。

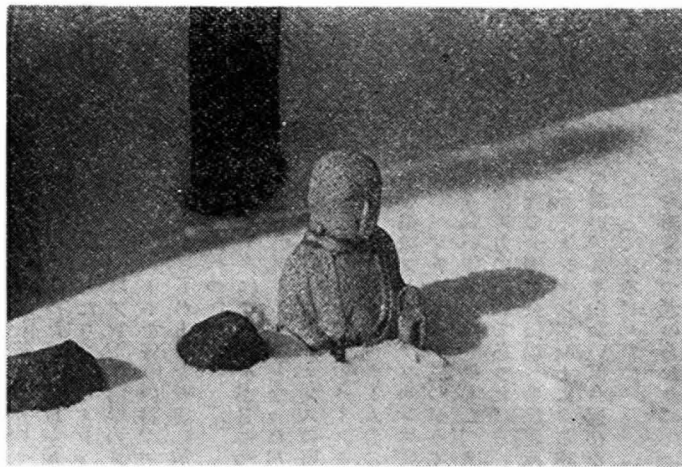
五城目町の石仏 小川元生 ⑭

草むらにひっそりと佇む石仏をみてみると、風雨、あるいは風雪の日を連想して憐憫の情がわいてくる。

実際はどうだろうか、想像だけでは事たりず、ある夏の雨の日と冬の雪の日、近くの墓地へ出向いてみた。雨の日の石仏は降りしきる雨を全身にうけとめ、光っていた。感傷の機微を想像していたのとは大きな違いがあつた。

石仏には風雪をはねかえす力強さと、雨にも負けずの逞ましさがあつた。先人がそれ故に信仰や供養像を石材に求めたこともあらためてうなずかれた。この雪の日の地蔵は積つていた雪に新雪が降り積つた朝の晴れた日であつた。雪は青く

光りしんしんとした清浄感が周囲の光景とともに胸にとけ込んできた。地蔵は御影石で造立され、像種は両手が破損しているのではありません。片手に宝珠、片手は甘露印をむすぶ、十二地蔵のうちで餓鬼道を度すと言われる金剛宝地蔵のように見られる。(五城目町 大きさ 96×40×41)



五城目町子ども雪まつり (二月十九日)

雪国の伝統行事を楽しむ

町では第一回の子ども「雪の祭典」を行うことになった。雪の里にふさわしい行事を企画したもので、消えつつある遊びや、ほとんど見られなくなった雪遊びの再現が主体となる。

物資の不足な時代、子どもたちは自分たちの創意工夫で、いろいろな遊び道具を造ったものである。現在のようにはなやかで立派なものではなかったが、手造りに対する愛着はひととおりでなかった。

竹スキー、みかん箱の箱ぞり、スケートの木製版がドッコ、下駄の格好にレール二本がガッパ、みな手製のものばかり、足袋時代の遊具である。

くつ下時代の今の子どもたちにはなじみが薄いだろう。数年前、

馬川地区公民館でこの種の行事を行ったときは、ワラ製品にも人気があった。

実施要領はつぎのとおりである

▽日時

五十三年二月十九日(日)

前九時三十分～後二時三十分

▽場所 五小グラウンド、体育館

▽参加対象 町内の子どもと父兄

▽日程 伝承遊び

箱ぞり、おとし穴あそび、雪ダルマ作り、迷い路つくり、竹スキー、ドッコ、ガッパ、そり、馬そり乗り、ゲーム、たこあげ雪合戦、綱引き。

このほか、秋田県指定無形民俗文化財吉田辰巳氏、加賀谷久之助氏による「秋田万歳」と「山内番楽」の観賞などを予定している。

▽その他

・参加者は午前九時三十分までグラウンドへ集合

・昼食携行

・甘酒、とん汁がでますので、湯のみ茶わんとおおわんを持参のこと。

・小さい子どもは父兄といっしょ

・タコ、スキー、ミニスキー、ソリ各自持参

・旧町内の人自家



用車をご遠慮願います。他地区の人は相乗りできてください。駐車場は、ボーリング場跡、小

学校下

◎当日、悪天候の場合は二月二十六日(日)に開催します。

雪国の特徴とらえた子ども会の行事盛ん

恋地開設スキー場

子ども会で賑わう

町内における「子ども会」の行事も、年々多彩なものになってきている。

恋地開設スキー場は、町内外を

合っているところもあった。

もちつきは、築地町児童館でも二年ほど前からやっているが、この日、川端会館前に陣取った十日会のみなさんは、ドラム缶製かまどに、木製のセイロ、うす二台、それにキネが二本、今では珍らしい小道具が揃った。

もちつきの

感触に目の輝き



恋地スキー場はいまや屋外スポーツの殿堂

ほどよくふかされたフカシが、外気にさらされて、白い湯気がまき散らしたのが、子どもたちもグルリとうすを囲む。もちをつく人、あいだりする人のあうんの呼吸はリズムカルで、見ている人もつい引き込んでしまう。好奇心にかられる子どもたちも

創意工夫は豊かな心の支え 買って与える風潮から、この頃手造りの味を、創意工夫を子どもたちに体験させようとする親の志向が見えはじめている。この十日会がそのよい例で、また全町の規模でこのような行事を取り上げたのが、二月十九日に予定されている「子ども雪の祭典」である。雪国の特徴を捕えた子ども会の行事は、子どもたちの豊かな心を育て力強い支えとなってくれるであらう。



川端会館前でモチツキに興ずる子どもたち

て二十四チームが参加して熱戦を繰り広げた。この大会に出場した五一中男子チームは、宿敵外旭川中を接戦の末うち破り二年ぶり二度目の優勝を成し遂げ、女子は八郎湯中の善戦が期待されたものの予選リーグで破れ、秋田東中が優勝した。五一中は一、二回戦とも苦戦の連続であったが、速攻を加えたコンビネーションプレーで前半のリードを守り四番、五番がリバウンドボールを確実に取って十六番へつないだ。

予選リーグはファールが目につき、苦しいゲーム展開となったが準決勝、決勝ではデフェンスの堅さで相手を苦しめ自分のペースをつかんで逃げ切った。チーム力の弱さを組織プレーとデフェンス、それにベンチサイドの三つがうまくかみ合い強豪をなぎ倒した。まさに精神力の勝利であった。

今後の全国大会出場への課題はコンビネーションプレーによる密度の濃い、スキのない試合運びをすることである。

・試合結果はつぎのとおり。
・男子予選リーグ
五一中 46-40 能代二中
五一中 63-47 湯沢中
・準決勝
五一中 51-50 八幡平中
・決勝
五一中 45-24 旭川中

全県中学校新人バスケット 五一中、二年ぶり二回目の優勝

第八回全県中学校新人バスケットボール大会は、一月二十八日、二十九日の二日間わたって県立体育館に県内各地から男女併わせ

川端会館 ティア活動の拠点

社会福祉協議会では、福祉活動の一環として、各層ボランティア活動の推進をはかっているが、最も活発なのは、とよりがあしたの夢を育てる会の中に組織されているボランティアグループである。

一月十三日、川端会館で新年会を行ったが、その趣向が非常にユニークであった。

老人ホームと町内から八十歳以上のお年寄り七人と、井川町老人クラブ渡辺連合会長を招待し、会員たちの手料理をこそうした。

唄と踊りもまた見事であった。

この会員たちの考え方の基調に自分たちより活動できない人、恵まれない人たちの心の交流をはかっていきたいとするものがあつた。まさにボランティア精神である。

七八年伊豆大島近海地震被災者に

義援金募集しています

日本赤十字社秋田県支部(支部長小畑勇二郎)では、このたび発生した七八年伊豆大島近海地震の被災者に対して、県内から義援金を募集することになりました。

募集内容は次のとおりなので、お気の毒な被災者救援のため、是非ご協力をお願いいたします。

ボランティア講習会に

あなたも参加してみませんか

秋田福祉事務所では、在宅福祉活動を推進するため、ボランティア養成講習会を開くことになった。参加対象者は、ボランティア活動に従事している者およびボランティア活動の志している者で、この町の青年、婦人、老人層から五名以内となっている。

希望者は次の内容に従ってお申込みください。

①開催期日 二月十六日
午前十時から十五時まで

社会福祉協議会では、すでに組織されているボランティアグループや、新しく参加を希望される方などを含めて、今後在宅福祉活動を積極的に進め、町の福祉充実に関与していただきたい。

ボランティアとして、今後参加を希望される方は、社会福祉協議会の方へお申し込み願いたい。

一、受付期間

昭和五三年二月二十日まで

一、送金方法

秋田銀行中通支店

(日本赤十字社秋田県支部)

一、口座番号 普通預金 三三〇〇一

一、その他

①救援は、義援金に限ることとし、義援金は新品で、ある程度まとまった場合は、当支部に連絡していただきたい。

なお日本赤十字社では、取りあえず現地に次の物資を送っている。

・毛布 五〇〇枚
・日用品セット 五四〇組
日本赤十字社秋田県支部

フトン乾燥機

ご利用ください

申込みは各地区民生委員へ、社会福祉協議会では、このたびフトン乾燥機七台用意して、寝たきり老人をはじめ、身心障害者(在宅)を対象に、無料で貸付をすることになった。

貸付の方法は、各地区の民生委員に申込み、手軽に借りることができるようになっている。

このフトン乾燥機の使い方は非

全町スキー教室

- 1、日時 2月5日
午前9時30分～午後3時迄
 - 2、会場 五城目恋地国設スキー場
 - 3、参加料 無 料
 - 4、共 催 五城目町教育委員会
五城目町スキークラブ
- ※初心者を対象に行いますのでどなたでも結構です多数おさそいあつてご参加ください。



冬期青年

トレーニング教室

二月六日から毎週月水金

人権擁護無料相談
二月十一日、五城目地区
人権擁護委員会では、次の日程により無料相談に際するの、家庭の中における人間関係の問題、隣接する境界問題、集団の中での村八分の問題などいろいろあると思われ、人権擁護委員のみなさんは、その解決のため、相談にのってくれるので、気軽においでください。

・とき 二月十一日建国記念日
午前十時から午後三時まで
・ところ 役場第三会議室

「たこ上げ」による

感電事故を防ぎましょう

最近、子どもたちに人気のあるビニールゴロを電線にひっかけ、これをとろうとして事故を起こした例が出ています。

もし電線にひっかかたときは、自分で取らず東北電力(株)五城目出張所(電話一八八七六二〇四九)に連絡してください。

・二月八日(水)
午後六時～八時 実技
・種目(競技内容)
①サーキットトレーニング
②ウェイトトレーニング
③トランポリン
④選択種目
(バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントン、テニス、トレーニング室)

④指導者

- ・町体育指導委員
- ・町体育協会役員
- ・公民館職員

⑤参加料

無 料

⑥申込方法

公民館事務局(広域体育館)スポーツ教室係(四四一一)あて電話または文書で申し込んでください。

(グループ、団体でのとりまとめ申込歓迎)

⑦その他

①当日は運動できる服装でおいでください。

②原則として上記日程で行いなすが、変更になることもある。

③不明な点は公民館事務局(広域体育館)スポーツ教室係あて(電話四四一一)

内 容

- ①主催者あいさつ (教育長)
- ②日程説明
- ③受講生名簿の確認 (当日不参加の場合は受講生として認めない)

六時三十分より実技指導
八時 終了



おしらせ



農家調査に

ご協力を!!

秋田県農業基本調査が、県統計調査条例に基づき、二月一日現在で行なわれます。この調査は、秋田県の農家及び農家以外の農業事業体の実態を調査し、県ならびに市町村行政の重要な基礎資料となるものです。

調査の方法は、町より依頼されました調査員が、農家を巡回して行方面接聞き取り調査ですので、ご協力をお願いします。

調査結果についての個人の秘密は厳重に守られますし、また課税資料等に使用できないことは条例で定められており、農家等に不利益をもたらすことは絶対にありません。

おもな調査項目は次のとおりです。

- 一、新設農家、離農世帯
- 二、経営耕地面積
- 三、世帯員
- 四、専業、兼業農家
- 五、過去一年間における農産物総販売金額
- 六、水稲作を請け負いに出した面積、請け負った面積
- 七、家畜飼養頭羽数
- 八、農用機械
- 九、出かせぎ者

犬の所有権放棄について

今までは犬をいらなくなった場合五城目保健所に連絡するといつても捕獲しましたが、今度五城目保健所に捕獲する場所がなくなり、次により手続きをしなければなりません。

一、犬の所有権放棄についての届出をすること。(用紙は役場保健衛生課にあります。)

二、届出した方には後日、日時及び場所をお知らせします。

民有林枝打ち

間伐に補助

昭和五十二年度の民有林、枝打ち、間伐の事業に対する補助金が交付される。

申請する場合は事業の完了とともに産業課に備付けの申請書を利用してください。

▽対象林令

スギ 三令級(十年以上十五年) 四令級(十六年以上二十年)

▽対象事業名

スギの枝打ち及び間伐事業

▽対象面積

スギ一反歩以上(但し番地、所有者の明らかなもの)

▽受付締切日

昭和五十三年二月二十五日

▽注意

申込する場合は、林令、地番、所有者名、面積、枝打本数、間伐本数を確認のうえ記入して下さい。

献血で

このほど日赤本社から石川幸雄さん(一番町)に金バッチ(石川誠さん(新町)に銀バッチが交付されました。

老人ホームによせられた善意 十二月二十八日 児童作品 靴下 果物 井川小学校児童会

善意銀行預託者 一月十一日 二万円 上樋口 鳥井源太郎 (亡母ヤス殿の香典返しとして)

廃棄物には袋、標箋(町指定)を必ずつけて

ごみ収集の日程表に毎回注意事項としてお示ししておりますが、まだ袋、標箋をつけない方が見られます。特に車が入れない場所、指定の収集場所に袋、標箋をつけないでおかれた場合、収集所付近の家に大変迷惑がかかります。どうか今後そういうことがないようによろしくご協力願います。

一日 果物 大川 北嶋 倉治 餅つき、電気器具などの修理及び掃除 若美町青年ボランティア連盟 十三日 物置四坪新築、居室の押入区切等の労働奉仕 馬川大工組合 十四日 雑布 上樋口 猿田マチエ

昭辰町 草皆 陵及 好美 久子 大川三区 八柳 淳 勝美 セツ子 新畑町 渡辺 恵里 善孝 直子 上樋口 工藤 陽一 喜代美 チョ 希望ヶ丘 浅野 文男 良文 ミネ子 今町 清水 裕 暁子 上樋口 猿田 公寿 岡本 佐々木将樹 聖子 平ノ下 金野 真理 下山内 大石 禎子 久保 伊藤 勝彦 田町 真坂 仁史 仁子 富田 阿部 千春 高田 関藤 さやか 弘治 一子

誕生

おめでとう

ごさいます



石崎 嶋崎 貴芳 11、21 浦横町 小玉 典子 11、22 嘉典 芳子 11、23 下山内 大石由美子 11、23 樋口 猿田 裕子 11、24 美紀子 11、28 田町 小玉真里子 11、28 崇 逸子 11、28

中村 日吉百合子 11、29 常一 ヒサ子 11、30 田町 小玉 勉 保子 11、30 久保 一関 瑞恵 京子 11、30 高崎 武田 真 和子 12、4 信一 和子 12、6 上樋口 猿田 美穂 12、6 君美雄 ミネ子 12、6 大川四区 北嶋優美子 12、6 俊雄 洋子 12、9 長町 平川 靖子 12、9 正 信子 12、13 館越 本間友記美 12、13 清悦 ミネ子 12、13 小野台 石井 栄喜 12、13 正夫 ミヤ子 12、13

おくやみ申し上げます

一月 四日 石井 ノブ 76 門前 七日 佐々木重太郎 71 恋地